

平成 30 年 8 月 22 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2017

課題番号：16K13278

研究課題名(和文)史料形態の検討を通じた日朝越比較史研究の基盤形成

研究課題名(英文)Creating a Basis of Comparative Historical Research among Japan, Korea and Vietnam through Examination of the Forms of Historical Sources

研究代表者

桃木 至朗(Momoki, Shiro)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：40182183

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、前近代の日朝越三国における修史(歴史記述)および公文書様式の比較、各言語での成果発表などを通じて、本格的な日朝越三国の、三国及び世界の学界と結びついた比較史研究をおこなうための、方法的な土台作りを図るものである。それは対象の設定や使用言語の面で、従来の「東アジア史」を大きく変え、グローバルヒストリーにも新しい視座を提供できる可能性をもつ。2年間で計4回の研究会(最終回は国際シンポ)を開催して各自の成果を共有したほか、ハノイでの朝越比較史シンポ(2017年3月)でも成果を紹介するなど、多言語による成果発信も進められた。

研究成果の概要(英文)：This project aimed at creating a stable methodological basis of triangle comparative research of the histories of Japan, Korea and Vietnam, thorough the research of historiography and the form of official documents. It planned multilingual publications too, so that our research can be positioned in the academia of these three countries and of the world. In terms of research objective and linguistic settings, this project will be novel in the field of East Asian Studies, and will be able to show a new viewpoint for global history research.

Four meetings was held in two years (the final one was an international symposium) to share the achievements of the members and collaborators. Multilingual introduction of this project was also conducted, in the symposium of the comparison between Korea and Vietnam (Hanoi, March 2017) for instance.

研究分野：東洋史学

キーワード：日本 朝鮮 ベトナム 修史 公文書

1. 研究開始当初の背景

中国と周辺諸国との間、また日朝間などでは、関係史や比較史の研究が古くから盛んである。ところが、中華世界の周辺諸国同士の関係・比較となると、日朝間以外の研究は遅れている。たとえば朝鮮とベトナムの並行性は古くから知られているが、本格的な研究はまだ少ない。日越間に至っては、朱印船貿易などの関係史はともかく、比較に値する並行性が存在したことすら、ごく一部でしか認識されていない。そこには言語の壁だけでなく、東アジア諸国の学界における一国史観や東南アジア軽視などの問題が複雑に作用している。ベトナム史が組み込まれていないことは、中華世界全体およびベトナム自身を含む周辺諸国(その中で近代国民国家の原型となる中規模国家を形成したのが日朝越三国である)それぞれの理解にとって、明らかなマイナスなのである。本研究は、そうした学界的ありかたに危機感をもつ研究者たちによって、日朝越三国間の本格的かつ系統的な比較研究(それがもつ新しい可能性については、桃木が『中世大越国家の成立と変容』大阪大学出版会、2011年などで論じ、海城アジア史研究会、アジア世界史学会(AAWH)などの場でも、日本史・朝鮮史の研究者を巻き込みながら、問題提起・討議をおこなってきた)の土台造りを目指して立案された。

2. 研究の目的

目的として第一に選んだのは、中・近世の三国における正史や実録などの修史(歴史記述)と戸籍や土地台帳などの公文書について、だれがどのような手順でどんな形式・内容をもつものを作成し、それがどんな機能を果たしたか、それは中国との間だけでなく三国間ではどんな共通点や差異をもつのかを、関連する研究史を含めて理解することである。

第二に、その理解を土台として個人や共同研究グループがさまざまなテーマで三国の比較史研究をおこなう場合に、各国史、東アジア史、グローバルヒストリーなどそれぞれの角度から見て、どんな方法上の問題が起こりうるかという方法論の検討も目指した。

3. 研究の方法

目的(1)のために、桃木(ベトナム)・川西(朝鮮)・佐藤(日本)が主に中世、蓮田(ベトナム)、山内(朝鮮)、井上(日本)が主に近世という分担をまず決め、それぞれ資料収集・検討をおこなったうえで、毎年2回ずつ大阪大学と新潟大学で研究会を開き、資料状況を含む成果の共有や目的(2)に関する討議をおこなうこととした。また韓国・ベトナムの研究者や中国史専門家などの協力を仰ぎ、各国の学界のあり方や中華世界全体に関する研究動向とのすり合わせを試みた。

4. 研究成果

修史・歴史記述に関する検討が相対的に遅れたが、ベトナムの年代記間の比較、日本とベトナムの史書における都城機能の記録など興味深い知見も示された。文書については研究がより活発に進められ、中近世日本の文書の様式・機能に関する高度な研究状況、朝鮮の公私文書の機能や廃棄のされ方、外交文書を含むベトナム近世の文書状況など様々な報告が行われた。それらを踏まえ、近世日本とベトナムの国家意識、朝鮮王朝と近世ベトナムの身分制度や村落社会、それらと国家の関係など、史料が示す国家・社会の比較についても議論が弾んだ。

本研究はもともと、「日朝中だけで閉じた東アジア史」など学界のありかたを変えることを狙っている。そのために英語を含む多言語での成果発信を目標としており、すでに桃木がベトナムで複数の報告をおこなったほか、2018年7月に中国・長春で開かれる第4回アジア世界史学会(AAWH)大会で、蓮田・川西・佐藤が文書に関するパネルを開くことが決まっている(言語は英語)。その他、これも多忙のために計画期間内には間に合わなかったが、各自の研究レポートを三言語プラス可能であれば英語と中国語に訳して報告書のかたちで公表する準備を進めている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 12件)

三谷博・李成市・桃木至朗

「周辺国」の世界像 - 日本・朝鮮・ベトナム、秋田茂・永原陽子・羽田正・南塚信吾・三宅明正・桃木至朗共編著『世界史叢書総論「世界史」の世界史』、査読なし、ミネルヴァ書房、2016、pp.78-106.

Momoki Shiro

Thu phan tich quan che DAI VIET thoi LY thong qua tai lieu van khac, *VNU Journal of Science*, 査読なし、32(1S), 2016, pp.90-99.

山内民博

近世朝鮮の周縁的集団と史料 戸籍史料・裁判史料からの接近、環東アジア研究、査読なし、10、2017、pp.63~76

山内民博

朝鮮時代後期請願文書のなかの移来者 他邑からの居住地移動にともなう課役紛争事例の検討、韓国朝鮮の文化と社会、査読あり、16号、2017、pp.26~59

山内民博

朝鮮新式戸籍関連資料の基礎的検討(3) 一黄海道鳳山郡僧屠戸籍冊一、資料学研究、査読あり、15号、2018、pp.45~60

井上智勝

東アジアの宗廟」原田正俊編『宗教と儀礼の東アジア』（アジア遊学 206）、査読なし、2017、pp.9-33

井上智勝

神国と中華—僱武への道程と訓戒、日本思想史研究会会報、査読なし、第33号、2017、pp.1 11

蓮田隆志

ベトナム後期黎朝の成立、東洋学報、査読あり、99(2)、2017、pp.01-25

川西裕也

朝鮮時代における文書の廃棄と再利用、韓国朝鮮の文化と社会、査読あり、15、2016、pp.16-52

川西裕也

高麗忠烈王代発給の「松広寺奴婢文書」—パスパ字「駙馬高麗国王印」の新事例—、朝鮮学報、査読なし、245、2017、pp.117-139

佐藤雄基

「地下文書」とは何か、春田直紀編『中世地下文書の世界：史料論のフロンティア』依頼原稿、勉誠出版、2017、pp.14-26

佐藤雄基

文書史からみた鎌倉幕府と北条氏 口入という機能からみた関東御教書と得宗書状、日本史研究、依頼原稿、(667)、2018、pp. 24-48.

[学会発表](計 9件)

桃木至朗

アジアを正に位置づけ自国史を完全に組み込んだ世界史を旨として、第16回日韓歴史家会議「現代社会と歴史学」第2セッション「歴史教育の新しい動きと歴史学」、招待講演、2016年11月5日、東京・都市センターホテル

Momoki Shiro

“Land Categories and Taxation Systems in Dai Viet from the Tenth to the Fourteenth Century: A New Perspective From Goryeo and Early-Medieval Japan”, paper presented at the conference: Vietnam and Korea as “Longue Durée” Subject of Comparison: From the Pre-modern to the Early Modern Periods, Hanoi: University of Social and Human Sciences, VNU, March 5, 2017.

Momoki Shiro

Nguy co v acai cach cua giao duc lich su

cap PTTH va Dai hoc o Nhat Ban, International Symposium: “Reforming Teaching History in School: International Experiences and Implications for Vietnam”, 招待講演、Vinh Yen: Song Hong Resort, Sept.14, 2017

山内民博

日本所在 1906年『黄海道鳳山郡僧屠戸籍冊』をめぐって、新潟史学会第67回研究大会、2017年11月5日 新潟大学

井上智勝「神儒一致 日本朱子学者林羅山の立場」 第三屆海峡兩岸朱熹陳淳學術研討會 2016年6月24日 漳州融信皇冠假日酒店(中国福建省)

井上智勝

日本型儒教祭祀の形成 明治維新期の国家祭祀構築と整備、日本宗教学会第76回学術大会、2017年9月16日、東京大学本郷キャンパス

井上智勝

日本ヒトガミ信仰論再考 儒教祭祀の視点から、2017年度(第4期第3回通期26回) 日本宗教史懇話会サマーセミナー、2017年8月27日、かんぼの宿いわき

川西裕也

朝鮮時代古文書研究法、2016年度韓国前近代史若手研究者セミナー、招待講演、2016年8月28日

佐藤雄基

文書史からみた鎌倉幕府と北条氏、2017年日本史研究会大会、招待講演、京都学園大学 京都太秦キャンパス、2017年10月7日

[図書](計 1件)

高谷知佳・小石川裕介・佐藤雄基他共著『日本法史から何がみえるか』、有斐閣、2018、342p.

[産業財産権]

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桃木至朗 (MOMOKI Shiro)
大阪大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：40182183

(2) 研究分担者

山内民博 (YAMAUCHI Tamihiro)
新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授
研究者番号：40263991

井上智勝 (INOUE Tomokatsu)
埼玉大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：10300972

(3) 連携研究者

蓮田隆志 (HASUDA Takashi)
新潟大学・人文社会・教育科学系・非常勤
講師
研究者番号：20512247

川西裕也 (KAWANISHI Yuya)
新潟大学・人文社会・教育科学系・助教
研究者番号：30736773

佐藤雄基 (SATO Yuki)
立教大学・文学部・准教授
研究者番号：00726573

(4) 研究協力者

文淑子 (MOON Sook-ja)

ファム・レー・フイ (PHAM Le Huy)

吉川和希 (YOSHIKAWA Kazuki)